小学生の部　大賞

肩たたき券はないけれど

寝ぼけまなこの私を今朝も温かい御飯と母の優しい「おはよう」が迎えてくれる。昨日あれだけ散らかした部屋が片付けられている。着た服が洗たくされてきれいに畳まれている。数時間前、夜ふかしをしていた私の傍で父の営む町工場の伝票を書いていたはずなのに。一体いつ寝ているのだろう。いつ休んでいるのだろう。

働くとは父のように外の職場で仕事をする事だと思っていた。本当は母も同じように働いていたのだ。どれだけ家事を頑張ってもお金が稼げる訳ではない。それでも家族の為に今日も働く。

小さい頃おんぶされると落ちないように必死で掴んだ母の肩。成長するといつの間にか離してしまっていた。あれほど大きく見えていたのに今では小さな背中。ずっと触っていなかった。今日学校から帰ったら「ありがとう」の言葉をそえて疲れた肩をいっぱいたたいてあげよう。

三重県三重郡川越町　小学６年生
伊藤（いとう） 真理彩（まりさ）さん